

「スタートアップ躍進ビジョン」 公表から1年の動き

スタートアップ委員会

委員長

南場智子

(ディー・エヌ・エー会長)

委員長

高橋誠

(KDDI社長)

委員長

出雲充

(ユーグレナ社長)

TOPIC
1

スタートアップ提言の
フォロワーアップ

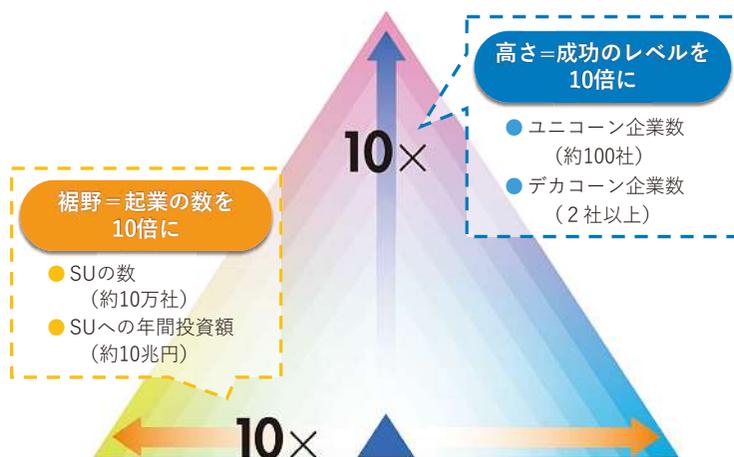
10X10Xの実現へ始動

5年後までにスタートアップを量・質ともに10倍にする。その思いから、経団連は2022年3月、提言「スタートアップ躍進ビジョン〜10X10Xを目指して」(以下、躍進ビジョン)を公表、具体的な戦略と38項目のアクションを提言した(図表1)。

同提言を踏まえ、政府はスタートアップを政策のトップアジェンダの一つに設定するとともに、2022年11月に「スタートアップ育成5か年計画」を策定した。官民が足並みを揃え、目標に向かう本気の姿勢を打ち出したことは、2022年度の最も大きな成果の一つである。この狼煙は世界の投資家にも届き、日本に目を向ける動きも始めている。

しかし、官民が掲げた目標は非常に野心的で、生半可な打ち手では到底実現し得ない。スタートアップは社会課題の解決やイノベーション創出の重要な担い手、そして

図表1 躍進ビジョンで掲げた目標



日本経済に競争力を取り戻すための切り札であり、スタートアップエコシステムの抜本的強化は日本の将来にとって不可欠な課題である。我々は、歩みを止めることなく、

あらゆる手段を講じて目標達成に向けて走り続けなければならない。

提言の実現状況を評価する レビューブックを刊行

そのためには、個別の施策の着実な実行に加え、都度現在の立ち位置を把握し、目標達成に必要な施策を的確に推進することが不可欠である。

そこで、スコアリングをはじめ経団連が行ってきた活動(図表2)や、実現した政策・効果と残された課題を整理し、2027年までに起こすべき七つの変化の実現状況を確認する「スタートアップ躍進ビジョンレビューブック2023」を5月に刊行した。

2022年度には様々な施策が実施されたが、始動初年度のため結果として表れている影響は極めて限定的である。また、世界的にはスタートアップの資金調達環境や事業環境が悪化している。日本のスタートアップ調達金額等も影響を受ける中、むしろよく踏みとどまっており、相対的に日本への注目度が増しているとの指摘もある。

こうした逆風の中だからこそ、スタート

図表2 スタートアップをめぐる主な活動

2019年～	大企業とスタートアップのマッチングイベント「KIX」の定期開催 *累計38回開催・延べ250社登壇(2023年7月1日現在)
2022年	
3月	「スタートアップ躍進ビジョン」を公表
3月	スタートアップエコシステムx人材・キャリアシンポジウムの開催(約160人が参加)
7月	カーブアウト活用法に関するセミナーの開催(約220人が参加)
8月	小池東京都知事への提言手交
9月	規制改革要望・税制改正要望による提言
11月～	事業成長担保権の制度設計に向けた金融庁・事業融資WGへの参画 ⇒議論を踏まえ、金融庁は2023年2月に制度概要を公表 2023年度中の国会提出、2～3年後の制度開始を目指す
11月	自民党・スタートアップ政策に関する小委員会におけるプレゼンテーション
2023年	
1月	宮坂東京都副知事との懇談会(約130人が参加)
1月～	文部科学省任命「起業家教育推進大使」による講演活動への協力
1～2月	スタートアップフレンドリースコアリングの実施
2月	M&Aの実務対応に関する説明会(約100人が参加)
4月	経済産業省との共催によるスタートアップの海外展開に向けた官民連携カンファレンス(約230人が参加)
5月	経団連Startup Summit(約350人が参加)

経団連事務局作成

アップを支える環境を継続的に整備しなければならぬ。大企業にとっては、スタートアップフレンドリースコアリングの結果にも表れている通り、改めてスタートアップのM&Aやアクハイア(人材獲得を目的とした企業買収)を検討することも重要となる。(詳細は71～72ページ)

本レビューブックで整理した現在の立ち位置と残された課題を、官民の関係者間で広く共有することで、10X10Xに向けた取

り組みを着実に進めていく。皆さまにもぜひ一読いただき、今後ともにスタートアップエコシステムを盛り上げていただきたい。



西村経済産業大臣と南場・高橋・出雲委員長(2023年4月)

経団連 Startup Summit を開催

足元の政策や取り組みについて、今何が実現していて、何が足りていないのかを関係者で共有し、アクションを加速するため、2023年5月30日、後藤茂之スタートアップ担当大臣、宮坂学東京都副知事をはじめ、政府・大企業・スタートアップから総勢350人が一堂に会する「経団連 Startup Summit」を開催した。

THEME 1

座談会
スタートアップ政策の
レビューと今後の課題

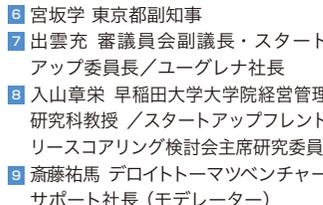


1 後藤茂之 経済再生担当、新しい資本主義担当、スタートアップ担当大臣
2 南場智子 副会長・スタートアップ委員長/ディー・エヌ・エー会長
3 志水雄一郎 フォースタートアップス代表取締役社長

4 岩崎由夏 YOUSTRUST 代表取締役CEO
5 築島謙太郎 Logomix Director

THEME 2

パネルディスカッション
スタートアップ
エコシステムのあり方



全体解説

事例紹介(事業連携)

事例紹介(カープアウト)

THEME 3

事例紹介
スコアリングに関する
プレゼンテーション

スコアリングにより
大企業の行動変容を促す

経団連では「躍進ビジョン」公表以降、政府に対し、提言事項の実現と施策の実行に向けて様々な働き掛けを行ってきた。しかし同時に、経済界も変わっていかなくてはならない。そのために開始した重要な取り組みが、2023年1月にリリースした「スタートアップフレンドリースコアリング」（以下、スコアリング）である。

スコアリングは、その名の通り、自社がスタートアップにどれだけフレンドリーか、あるいはスタートアップのエコシステムにおいて重要な役割を果たしているか、その度合いを「見える化」する仕組みである。

企業は、計32問の設問に回答することで、自社の現在の立ち位置としてのスコアや分析結果を示した非公開のフィードバックシートを受け取ることができる。設問は、

三つの評価軸「スタートアップへのリソース提供」「スタートアップ事業・人材の取り込み」「スタートアップエコシステムへの事業・人材の輩出」に基づき構成されている。初年度である今回は、約150社に参加いただいた。スコアリングへの参加は、回答した時点ですでにスタートアップ振興に前向きであることを意味している。参加いただいた企業に心よりお礼申しあげたい。

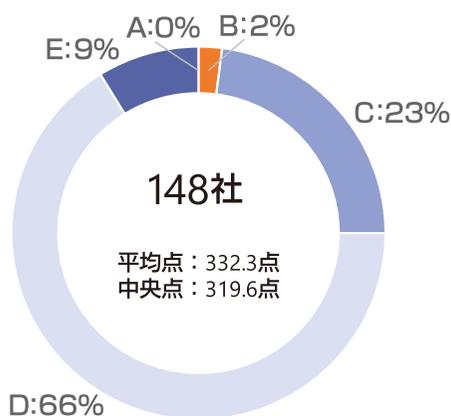
スコアリング回答結果の概要

フィードバックシートでは、1000点満点として、前述の三つの評価軸それぞれの点数を示した。また、各評価軸をブレイクダウンした中分類や小分類の点数、さらに各分類の点数に応じたA～Eのランクも示すことで、スタートアップフレンドリー度を高めるにはどの要素に課題があるのか、逆にどの要素に強みがあるのかを可視

化している。

その結果、平均点は332.3点、総合評価Dの企業が全体の66%を占める結果となり、総合評価Aの企業は現れなかった(図表3)。これは、本スコアリングが目指すスタートアップフレンドリーな大企業とは、GAFAMのようにグローバル水準で総額・スタートアップとの連携がトップレベルの企業を想定しているためであり、今後、総合評価Aを得る企業をいかに増や

図表3 スコアリングの総合結果



図表4 スコアリング上位10社

1	KDDI
2	ディー・エヌ・エー
3	東京海上ホールディングス
4	凸版印刷
5	BEENOS
6	リコー
7	第一生命ホールディングス
8	三井不動産
9	コマツ
10	野村ホールディングス

していかかが活動の指針となる。総合的なスコアが高かった上位10社は図表4の通りとなった。

中分類ごとの結果では、例えば「アクハリア」「M&A」「カーブアウト／スピノフ」はDランクとEランクが大半を占めた。これは決して悲観的な結果ではなく、伸びしろが大いにあることを示している。実際、「製品／サービス導入機会の提供」ではA・Bランクが約70%を占め、「人材輩出」ではA・B・Cランクが約60%と、多くの企業がスタートアップとの連携や流動的な人材移動を当然の選択肢の一つとして考え始めていることがうかがえる結果となった。

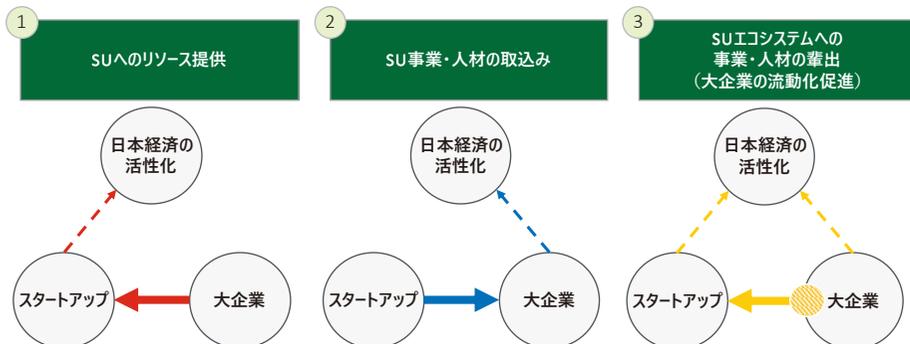
こうした結果や詳細な分析については、

より多くの企業の参加が重要

入山章栄早稲田大学大学院教授やデロイト・トーマツベンチャーサポートの支援を得て、「スタートアップフレンドリースコアリング検討会報告書」として公表している。加えて経団連では、各中分類で高いスコアを得ている企業の先進的な取り組みを事例集としてまとめた。スタートアップフレンドリーになるためにはどのような制度・対応が必要かを具体的に検討する際、必ずや参考にしてもらえはるはずである。

本スコアリングの特徴は、今回限りではなく継続的に実施する点にあり、今回参加いただいた企業には自社の成長を定点点観測するかたちで確認してもらうことができ。分析結果を参考としつつ、自社の取り組みの強化、積極的なM&Aの活用、人材・事業の輩出等を進めてもらいたい。スコアリング結果報告書ならびに事例集は経団連ホームページに掲載している。2023年には参加されなかった皆さまにもぜひご一読いただき、次回スコアリングから参加いただくようお願いしたい。

図表5 スコアリングの考え方



※ 詳細については、経団連ウェブサイトにスタートアップ特集ページを参照

